

インドネシア事業がJICAで採択

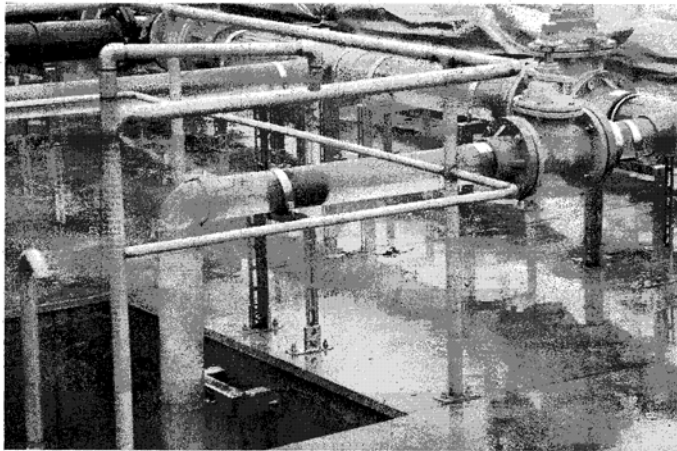
中里建設（佐野市、中里聡代表取締役）は、同社が提案した「都市給水の水质および供給力を向上するための送配水管内洗浄案件化調査」（インドネシア）について、国際協力機構（JICA）の中小企業海外展開支援事業「案件化調査」に採択された。同社が開発した洗浄技術である「アクアピク工法」を活用したもので、JICAの案件化調査では本県から初採択となった。同社は、31年7月から1年間現地で行う予定。案件化調査の結果を基に、回国での普及に向けた実証事業や、他国での事業展開も視野に入れているという。

「アクアピク工法」海外展開へ

「アクアピク工法」は、従来のボールピクによる洗浄を改良した技術で、アキレス（東京都新宿区）と共同開発。φ250までの管路内の洗浄を可能としている。同工法は、特殊コーティング加工で圧縮・復元性を合わせた。中里代表取締役による「アクアピク工法」は、送配水管内をスムーズに流れ、詰まることなく内面を傷つけずに、短時間で安全に管内の夾雑物を除去できる。環境にやさしく、コスト削減にも優れた工法となっている。中里代表取締役は「熱心な誘いがあったことや、安全な水の普及による海外貢献につながる」と、JICA申請前に宇都宮大学から同工法について、海外に技術を紹介したいとの申し出があり、インドネシアからオファーを受けたという。中里代表取締役は「熱心な誘いがあったことや、安全な水の普及による海外貢献につながる」と、JICA申請前に宇都宮大学から同工法について、海外に技術を紹介したいとの申し出があり、インドネシアからオファーを受けたという。



記者会見で説明する中里社長（右）



水理研究施設を使いデモンストレーションを行った

の要望を受諾した。同社は、宇都宮大学・建設技建インタナショナル（東京都江東区）・大和総研（同江東区）とチームを編成し、今年4月に案件化調査をJICAに申請。このほど、案件

大東建託（本社・東京都港区、熊切直美代表取締役社長）は、同グループ初のサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）「エルダーガーデン築瀬」（宇都宮市築瀬町2563-5）の完成に伴い、報道関係者を招いての現場見学会を開催した。来月1日にオープンする同施設は、RC造3階建てで、延べ床面積は2300.07平方メートル。居室は1Kタイプ36部屋と2LDKタイプ4部屋を備え、グループ会社であるケアパートナーが運営する介護事業所を併設。建物管理や契約管理、家賃管理などは、同じくグル

化調査に採択されたもの。JICAによると、すでに現地で具体的に計画を進めていたことなどが、採択の決め手になったとしている。同社で行われた説明会では、保有する水理研究開発センターでアクアピク工法のデモンストレーションを実施。社員の巧みな技術でアクアピクが操作され、管内がスピーディーに洗浄される様子が公開された。

県設備業協会 18人が環境美化活動 鬼怒グリーンパークを清掃

県設備業協会（田中英治会長）は25日、高根沢町の鬼怒グリーンパークで、今年度2回目の「愛パークとちぎ」清掃活動を実施した。午前9時45分から約1時間、会員企業から参加した18人が公園内の環境美化に取り組

大東建託 グループ初のサ高住完成 報道関係者招き見学会

グループの大東建託パークが、サ高住は、要介護高齢者が多く入居する有料老人ホームとは異なり、自立あるいは軽度の要介護高齢者を受け入れる賃貸住宅。同施設には、介護資格を有するコンシェルジュが常駐し、入居者をサポートする。居室は全面バリアフリー構造で、緊急呼び出し装置も設置されているため、万が一の時にも迅速な対応が可能。調理スタッフが施設内で調理した、健康でバランスの良い食事も朝・昼・夜の3回提供される（有料）。同社では、グループ会



社の強みを生かした質の高いサービスの提供を目指し、地域や産学との連携を図りながら、変化を